

海外安全対策情報（2022 年 10 月～12 月：コロンビア）

1 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（１）全般

ボゴタ市、メデジン市、カリ市等の都市部を含め、窃盗・強盗の一般犯罪被害が昼夜を問わず多発している。比較的治安が良いとされる地域でも、飲食店内の置き引き、バイクを利用した強盗・ひったくり、夜間の路上強盗等の発生が見られる。また、SNSを通じて知り合いになり、飲食店や自宅等で飲食をする機会に乗じて、飲食物に睡眠薬を混入させて意識を失わせる睡眠薬強盗被害や、警察官に成りすまして職務質問を装い金品をだまし取る等、様々な手口の犯罪が見られる。また、カルタヘナ市では、暗殺者の反抗と見られる殺人事件が急増している。

国防省が発表した 2022 年 11 月末までの統計によれば、コロンビア全体の殺人事件発生件数は前年同期比で 2 % 減少したが、強盗や窃盗事件の発生件数は 22 % 増加している。強盗や窃盗事件は、警察に届け出ない被害者が一定数いて、実際の犯罪発生件数はより多いと预料されることから、被害に遭わないためには十分な注意が必要である。

具体的には、人気のない道路は日中でも注意する、身の回りの物から目を離さない、怪しい人物に狙われていないか注意する等、常に警戒を怠らない心構えが必要である。万が一、強盗やひったくりに遭った場合は、生命を第一に考え、絶対に抵抗せず、盗まれた物を取り返そうとはいけない。

（２）邦人犯罪被害事案

- ・ 11 月 28 日午後 2 時 30 分頃、ボゴタ市の旧市街の細街路を歩行中、背後から来た若者 2 人組にナイフを突きつけられ、所持していたスマートフォンを奪われる強盗被害が発生。
- ・ 12 月 20 日午前 8 時 30 分頃、サンアンドレス島のホテル敷地内の海岸を散歩中、バイクに乗った 2 人組に所持していたバッグを引っ張られた。犯人が武器を持っている様子であったため、身の安全を優先し、自ら犯人にバッグを投げ渡した強盗事件が発生。

2 テロ・爆弾事件発生状況・関連報道

E L N、F A R C 離反兵等の反政府武装組織の活動が活発な地域において、治安当局やインフラ施設に対するテロ事件が発生している。ボゴタ市では 2017 年 6 月、ショッピングセンター「アンディーノ」においてフランス人女性を含む 3 名が死亡する無差別テロ事件が発生、2019 年 1 月、市内の警察学校内で学生 22 名が死亡する E L N による自動車爆弾が発生しているほか、本年 3 月 26 日にはボゴタ市南部のシウダー・ボリーバルの交番（C A I）の外周に仕掛けられた爆弾が爆発し、付近に

いた児童2名が死亡、勤務中の警察官1名を含む25名が負傷、交番付近の家屋等約50戸に物的被害が生じており、今後もテロへの警戒は必要である。

ペトロ大統領の呼びかけにより、多くのゲリラ組織や武装犯罪組織が和平交渉に応じる姿勢を見せているが、これら組織の活動が活発な地域では警察署や軍の基地等、治安部隊に対する攻撃は相変わらず発生していることから、こういった場所に不用意に近づかないことが大切である。

- ・ 10月27日 スクレ県シンセレホ市で、警察のCAIに手榴弾が投擲され、警察と一般人のバイク8台が損傷。
- ・ 11月19日 グアビアレ県サン・ホセ・デ・グアビアレ市郊外の警察署がテロ攻撃を受け、警察官2名が負傷。
- ・ 11月30日 カウカ県エル・ボルド市の警察署が爆発物で攻撃され、建物に損傷。
- ・ 12月6日 カウカ県ブエノスアイレス市の軍事基地が襲撃され、軍人6名が死亡、6人が負傷、7人が行方不明
- ・ 12月20日 カウカ県トリビオ市で警察署に対する爆破テロが発生、警察官1名が重傷。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

ELN等の反政府武装組織や麻薬犯罪組織が、身代金目的の誘拐、恐喝、脅迫を行い、資金源としている。都市部では犯罪組織による偽装タクシーを使用した短時間誘拐の犯行もあることから、タクシーアプリや無線タクシーを利用し、流しのタクシーは利用しない等の注意が必要である。